

# 平和の大切さを伝えるために

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式ならびに平和祈念式が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校の生徒代表16人を含む22人の平和使節団が参列しました。原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげると共に、平和への願いを込めて折った千羽鶴(約1万5千羽)を「原爆の子の像」へと献納してきました。

園総務課(☎内線2212)

## ■田口長八郎さん(土浦市地区長連合会)



広島に70年前、人類史上はじめて原子爆弾が投下され、4千度の熱線、280m/秒の爆風が尊い命を14万人も奪い、理不尽で不条理で悲惨この上ない戦争が、広島を焦土と化しました。今、被爆者の平均年齢も80歳を過ぎ、平和教育のもと核兵器根絶を願う平和な広島があり、日本がある。そして昭和63年3月に非核平和都市宣言、平成6年以来、広島平和記念式典に使節団を送っている我が土浦市がある。みんなで心の中に平和の砦を築こう。

## ■細野伸子さん(土浦市女性団体連絡協議会)



一輪の花を捧げんがための長蛇の列。聞こえるのは生を謳歌するクマゼミの声。8月6日の広島街はとても静かで、人々の祈りで見ちているように感じられた。昭和22年に「広島平和祭」として開催されて以来、途切れることなく続けられている平和記念式典に、ようやく今年参加することができた。これまで、遠くから祈りを捧げていたが、今回実際に式典に臨み、献花し手を合わせたとき、緊張とともに厳粛な気持ちになった。

## ■池田雄一さん(土浦青年会議所)



広島市の被爆70周年という節目の年に、平和使節団として「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」への参加や、平和記念資料館等の見学と、大変貴重な経験をさせていただきました。私自身、広島を訪れたのは初めてでした。実際に訪れ、改めて戦争の残酷さ、原爆の恐ろしさ、そして今尚苦しんでいる被爆者の方々、ご家族の方々が多くいらっしやることを目の当たりにしました。改めて戦争のない平和な世界を強く望みます。

## ■菅谷 篤さん(土浦二中 教諭)



広島平和記念式典への参加は、改めて原爆について考える機会となりました。原爆の被害については知っているつもりでしたが、熱線・爆風・放射線とが複雑に作用した大きな被害で、人々が命を落とすしていく様子を平和記念資料館で見るときは、とても心が痛みました。核兵器の廃絶はそれぞれの国家に求められていることです。私も、教員という立場でやれることをやっていく必要があることを強く感じました。

## ■岩瀬大河さん(土浦一中 二年)



僕は自分の好きなことをできるといふことが、当たり前だと思っていました。しかし、広島に行くと、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを知り、今の生活のありがたさが分かりました。僕は、今回学んだことを一人でも多くの人に伝え、今の生活が幸せなものだと知ってほしいです。

## ■細田可奈子さん(土浦一中 二年)



今回広島へ行き、原爆についてたくさんのお話を聞きました。そして、原爆は多くの人々の命を奪い、苦しめたのだと改めて感じました。周りの人たちにもこの原爆の悲惨さを話して、もっと知ってもらいたいと思いました。

## ■神辺千穂さん(土浦二中 二年)



私は、広島に行き、原爆の恐ろしさを目の当たりにし、平和の大切さを改めて知る事ができました。そして、70年前の事は決して忘れてはならず、次の世代へ伝えることが、私たちの使命なのだと思います。

## ■箱崎拳汰さん(土浦二中 二年)



今回広島へ行き戦争の悲惨さ等を感じました。草や木も75年以上生きてこないと行われていた地に行き、被爆から70年目の今年、そこは緑豊かな町に変わり、活気のある所でした。しかし、人の心の傷はまだ残ったままです。学んできたことを後世にも受け継いでいきたいです。

## ■飯島 琉さん(土浦三中 二年)



僕は、今回の平和使節団に参加させていただく前まで、戦争について、ぼんやりと思っていました。平和記念資料館、本川小学校を見学して、戦争の凄さ、怖さ、悲しさをとても強く感じました。この場所に来なければ、これほど強く感じることはなかったと思います。この思いを少しでも他の人に伝えようと思います。

■森田花鈴さん(土浦三中 二年)



広島は緑豊かで70年前に原爆が投下されたとは思えないほど、きれいな町へと変わっていました。資料館では目を背けたくなるような写真が展示されており、原爆の恐ろしさを目で見ることが出来ました。この体験で学んだ、原爆の恐ろしさと平和の大切さを多くの人に伝えたいと思います。

■小出俊太さん(土浦四中 三年)



今回広島で見聞きしたことは、学校や本で学んだ事よりも、衝撃的で頭から離れないものとなりました。自分が感じた原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを自分の言葉で伝え、一人でも多くの人が核と戦争の恐ろしさについて考えるきっかけを作れたら良いと思います。

■中道みづほさん(土浦四中 三年)



今回広島へ行ったことで、これまで実感のなかった広島への原爆投下という現実をはっきりと認識しました。資料館で、そこにある写真に自分が写っているという方に出会うなど、とても貴重な体験をさせていただき、平和の尊さを強く感じました。

■鈴木佑珠さん(土浦五中 二年)



私は今回広島に行つて、戦争と原子爆弾の悲惨さを改めて知りました。そして、今の平和な日本からは想像できないほど、辛く残酷な時代があったという事を決して忘れてはいけなさと感じました。これから先も、戦争の悲劇を次の世代に伝えていきます。

■中嶋 匠さん(土浦五中 二年)



私が平和使節団として派遣されて心に残ったことは、資料館で見た鉄の扉が熱風でねじ曲がっていたものと大火傷をした人々の写真です。戦争の悲惨さ、核兵器は決して使つてはいけないことを改めて痛感しました。こういった機会を作ってください方々に大変感謝しています。

■小松崎可那子さん(土浦六中 二年)



私は、戦後70年という節目の年に平和記念式典に参加することができて本当に良かったです。日本人だけではなく、世界中の様々な国の人々が一つになつて平和を願い、歌を歌つたことに感動しました。70年前の出来事を二度と繰り返さないように、核のない世界になって欲しいです。

■瀬戸祐孝さん(土浦六中 二年)



私は、平和使節団として広島のを訪れ、特に灯籠流しが印象に残りました。その幻想的な風景に人々の平和を願う気持ちを感じました。私も灯籠に核兵器がなくなり世界に平和が訪れることを願いました。この貴重な体験をみんなに伝えていきたいと思っています。

■菊田 花さん(都和中 二年)



私は、8月6日に広島市平和記念式典に参加しました。一番私の心に突き刺さるように感じたことは、戦争の悲惨さと平和への尊さです。たった一発の原子爆弾で多くの尊い命が犠牲となり、かろうじて生き残った被爆者たちが今もお苦しんでいることを広島へ行き感じることが出来ました。私は、広島の悲惨な過去を知り、平和への大切さを肌で感じることができました。

■佐山史絵奈さん(都和中 二年)



私は、初めて広島に行きました。広島の一部は、原爆があったと思えないくらいきれいな街になっていました。しかし、70年前の原爆は人々の体と心に二度と消えない傷をつけていたことが今回の使節団派遣で分かりました。式典で私は、一人の男性と出会いました。その方は、私に折り鶴をくれました。「亡くなった子供達の代わりに遊んで」と。私は今回の体験を大切にしようとして心に決めました。

■片見海翔さん(新治中 二年)



平和記念式典に参加して、原爆はとても危険なものだと分かりました。今年、戦後70年という節目の年なので、国内や国外から大勢の参列者がいます。現在の広島は豊かで発展しているので、原爆が落とされたとは思えませんが、先人の話で詳しく知る事が出来ました。

■佐藤七海さん(新治中 二年)



一番印象に残っている原爆ドームは迫力がありました。原爆ドームは原爆が落ちた一番の証拠であることと分かった。ここでもとても大変なことがあったのだと今までで一番強く感じました。広島に行つたという経験を活かし、皆が平和を願えるように訴えたいです。

(原文のまま)

